

# 定年県職員 大きな戦力

◇ 東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町で、3月末に定年退職した宮城県北部保健福祉事務所(大崎市)前副所長の本間照雄さん(60)が仙台市泉区がボランティアとして活躍している。県職員時代に福祉部門で培った経験を生かし、2次避難先での医療、介護環境の整備に手を尽くす。町は「大きな戦力」と信頼を寄せている。

◇ 本間さんは、南三陸町の

## 宮城・南三陸

住民が2次避難した大崎市、栗原市で高齢者が十分な医療や介護を受けられる手はずを整える「つなぎ役」を務める。

カテゴリーで排尿する高齢者を診ることができ、病

院の手配、介護が必要な高齢者のケアプランを作る地域包括支援センターとの調整。人脈と知識を総動員する。

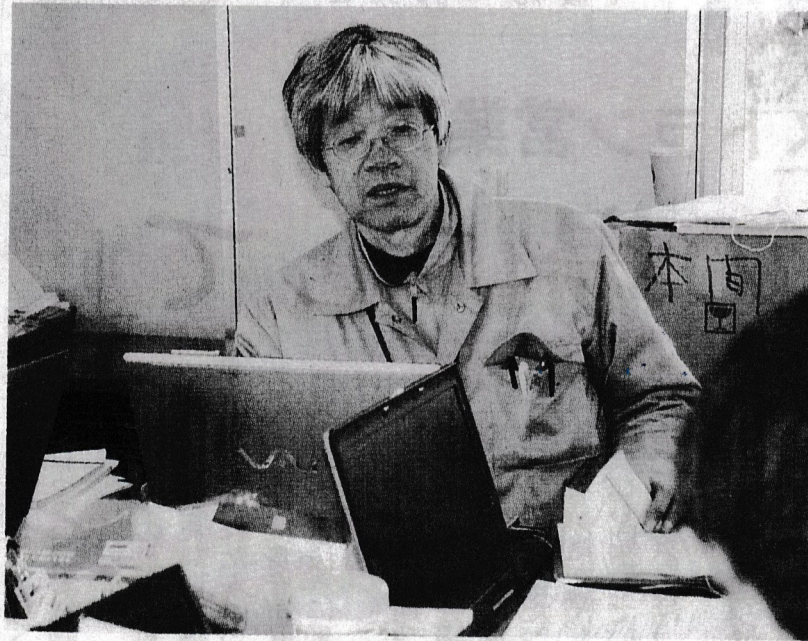
県庁では長寿社会政策の福祉関係者に話が通じ

課、地域福祉課などに勤務。震災に公務員の血が騒いだ。少しでも経験を生かしたいと申し出て、4日から町の仮庁舎で寝泊まり、集団避難対策班を支援している。

本間さんは「被災者の希望に添うためにも、保健師や介護事業者らが十分に力を発揮できるように調整役を徹したい」と話している。

南三陸町集団避難対策班の高橋一清さん(51)は「町外での医療、介護資源の知識は町職員にはない。本間さんは、電話一本で県内各地に徹したい」と話している。

## 医療と介護 環境整備尽力



町職員と打ち合わせをする本間さん(宮城県南三陸町の仮庁舎)

(片桐大介)